

## 地域未来創生塾@中央公民館（全10回）

李 永 俊<sup>1</sup>

### 1. はじめに

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターは、弘前市立中央公民館と連携して「地域未来創生塾@中央公民館」を開催した。「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全10回の講座が開かれた。本事業は、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策、地域の防災・減災などを模索するために、地域住民の皆さんと弘前大学人文社会科学部の教員及び学生が学び合う場を作ることを目的として実施した。

本年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のために、リモートと対面型を並行したハイブリット形式で行った。そのため、弘前地域だけでなく、八戸やむつなど県内の様々な地域や県外からも参加することが出来た。以下は各講座の要約である。

### 2. 各講座の要約

#### ○第1回「文化財の価値を引き出し活かす」2021年10月13日（水）

人文社会科学部教授・関根達人

令和3年度、弘前市は久渡寺に所蔵される円山応挙筆「返魂香之図」と山観普門院本堂の2件を新たに文化財に指定した。何れも指定に先立って行われた調査により、新たな事実が判明し、それが文化財としての価値を高め、今後の保存・活用に新たな展望が拓けた。

久渡寺所蔵の「返魂香之図」は、有名な応挙の「幽霊画」としては国内唯一の真作であり、今回の調査で、弘前藩の家老森岡主膳元徳が亡き愛妻を偲び、供養のため応挙に制作を依頼し、天明の飢饉の責任をとって自害する前に森岡家縁の久渡寺に奉納したことが分かった。

普門院本堂は、奥の正堂と手前の礼堂、その全面的向拝からなる。礼堂内の柱や薨戸に残る墨書を赤外線カメラで調査した結果、礼堂は参拝者が急増した19世紀前半に増築され、津軽地方西北郡からの参拝者に混じって遠く箱館からも北前船の乗組員が参詣に訪れていることが分かった。

先人から受け継いだ文化財は、かけがえのない地域の財産であり、調査によりその価値を高め、適切な活用を図ることは、地域を活性化し、未来の創生に大いに資するものである。

#### ○第2回「アートを語ろう ～現代美術のリアルとファンタジー～」2021年10月27日（水）

人文社会科学部教授・宮坂 朋

現代アートは、古代から続く芸術に続くものか？アートの語源はラテン語の *ars* で熟練技能を指す。この講義では、古代美術と現代アートに共通するものを掘り起こし、19世紀におけるアートの変化に言及

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部・教授

し、ポストモダン直前までのアートの見取り図についての概観を提示した。

規範としての古代美術を大別すると、「存在をとらえる」自然主義と「存在しない」ものを表現する抽象主義がある。印象派により、絵画は再現を離れ自律的な美しさへの追求の方向へ進み、抽象主義芸術が幕を開ける。次いでキュビズムにおいて写実主義は解体し、モノはどのように存在するかを分析的に表現する。一方、ダダは既存の価値観の破壊と否定の動きであり、連なるシュールレアリズムは作品の創造の原動力を意識ではなく無意識に求めた。このようにアートは熟練技能ではなく、意表を突く着想、社会批判、理想の追求などに存在意義を見出している。現代アートに立ち向かうには、自ら発見する姿勢が要求されるといえる。

### 第3回「ハラスメント問題を法的に考える」 2021年11月10日（水）

弘前大学人文社会科学部助教・渋田 美羽

講義の理解に必要な労働法の基礎知識について簡単に説明し、近年注目されるトピックであり、誰しもが巻き込まれてしまう可能性のある「ハラスメント」の問題について、法的な視点から検討を行った。

具体的には、いわゆるセクハラと、パワハラに焦点を絞り、それぞれについて、労働法上の意義や、近年の立法の動向等を紹介・解説した。特に、日ごろ目にする報道で触れられるような典型的な行為だけでなく、より広く様々な行為がハラスメントに該当する可能性についての解説に力を入れた。そのうえで、セクハラ・パワハラについて、それぞれ架空の設例を立て、ある加害行為を行った労働者の責任、使用者（企業）の責任がどのように追及され、被害者が受けた損害がどのように回復されるのかを検討した。設例の検討を通じて、身を守る術としての法知識を身に着けることに主眼を置いた講義ではあったが、法学を専門的に学ぶにあたって避けられない「裁判例を読み解く」ことにも挑戦した。

### 第4回「同じ様なことをしているはずなのに結果で違いが生まれるのはなぜ：戦略論的に考える」

2021年11月24日（水）

弘前大学人文社会科学部准教授・高島 克史

同じような製品・サービスを同じような価格で同じように宣伝広告し、同じような場所で売っているはずなのに、最終的な成果（利益・売上）でみると違いが生まれることがある。まずこのような現象が実際に生じていることを多様な事例をもとに確認をした。

次に、このような現象が生じる基礎的な理由の一端を紹介した。そこでは、ビジネスを考える順番を遵守することの必要性を説明した。その基本的順番は、「①市場を分類→②分類を踏まえて顧客を選択→③製品・サービス、価格や宣伝広告を検討」という流れである。特に、顧客を分類・選択する必要性については事例を用いて説明した。あわせて「顧客を分離選択せずに、万人に受けるような製品・サービスが必要」と考える危険性も説明した。



最後に、顧客に向き合うことからビジネスは始まる。だからこそ人間の本性をよく理解することが、最終的な成果につながることを説明した。

#### 第5回 「仏像の調査と修理—地域文化資源を守る取り組み—」2021年12月8日（水）

弘前大学人文社会科学部助教・佐々木あすか

近年、絵画や仏像などの有形文化財の修理に関する報道の機会も増えてきた。一方、文化財調査の具体的な方法などを広く伝える機会は比較的少ない。本講義では、文化財の調査と修理の具体的な方法や事例について、おもに仏像を例に取り上げた。調査については、その目的として、研究以外にも状態の確認や修理の事前調査として実施されることがあり、調査を契機として新たな価値づけがなされる場合があることを述べた。そして寸法の計測や写真撮影などを含む調査項目それぞれの意義、記録方法などを解説した。

修理については、特に日本の文化財で使用される素材の耐久性などから定期的な修理が必要であることを述べ、現在の基本的な修理の考え方とそれに基づく修理例を紹介した。文化財の調査や修理が、地域の文化資源を守り伝える取り組みのひとつとなることを解説した。

#### 第6回 「地方都市の感染症対策行動」2021年12月22日（水）

人文社会科学部准教授・日比野愛子

感染症対策は社会的に重要な課題の1つとなっている。今回の地域未来創生塾講義では、まず、そもそもなぜ感染症対策が難しいのかを社会心理学の観点から解説した。大きく、タイムラグ（時間の遅れ）の認知の困難、分断と偏見の発生、評価のジレンマ（どの対策が良かったのかが後にならないとわからない）といった点が対策を難しくしている。続いて、東京都と青森県で行った質問紙調査の結果を紹介した。多くの人は適切な予防行動をとっているものの、ごく一部の人々が極端な危険行動をとる非対称な構造があることが示唆されている。また、行動変容の程度は、使っている情報メディア等と関係していた。最後の質疑応答の時間では、地域における今回のコロナ禍の記録をどのように活かすか、どのような情報が必要か、あるいはどのような関係者同士のコミュニケーションが必要かについて有意義な意見交換を行うことができた。

### 3. おわりに

今年度の講座では、考古学にはじまり、西洋考古学、労働法、経営管理、芸術史・日本美術史、民俗学、社会心理学、歴史学、社会学、会計学、地理情報科学など、さまざまな分野の目線から、この地域の課題だけでなく、地域の潜在力や地域資源の可能性などを再発見する貴重な場となった。このように地域の現状を多角的な目線で理解し、地域住民の皆さんと共有することは、今後の地域づくりのために大変重要な取り組みとなりうる。このような事業を継続することを通して、より多くの市民や学生が地域の実情を再認識できる場を拡げていきたい。

おもい  
想いの  
未来を  
描こう

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・弘前市立中央公民館  
弘前大学との地域づくり連携事業

# 地域未来創生塾 @中央公民館

参加  
無料

お申込み不要

日程:令和3年10月13日(水)から令和4年2月24日(木)の  
期間の第2および第4水曜日(全10回・第10回のみ第4木曜日)

時間:18:30~20:00 対象:弘前市および近隣にお住まいの高校生・一般の方

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために基本的にZoomによるオンライン授業の形式で行います。また、ヒロ口3階多世代交流室2にてパブリックビューイングも実施いたします。



ZOOM

[ミーティングID] 248 186 4809

[パスワード] 393198

QRコードで  
参加▷



パブリックビューイング会場:ヒロ口3階多世代交流室2 ※第1回のみヒロ口4階弘前市民文化交流館ホール(弘前市駅前町9-20)

※全10回のうち6回ご参加の方には修了証を授与します。最新情報については、チラシ配布および地域未来創生センターホームページに掲載します。  
主催:弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 共催:弘前市教育委員会(中央公民館) 後援:弘前市・東奥日報社・陸奥新報社

お問合せ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター ☎0172-39-3198(平日9:15~17:00)  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1 E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>

# 「地域未来創生塾@中央公民館」

## 目的

「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全10回の講座を開催いたします。具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策・地域の防災・減災などを模索するために、地域のみなさまと弘前大学人文社会科学部の教員が、講義形式で学びを深めます。関心あるテーマのみのご参加も大歓迎です。



## 年間計画

第1回	令和3年10月13日(水)	文化財の価値を引き出し活かす	講師：人文社会科学部教授 関根達人(専門：考古学) 内容：令和3年度、弘前市では久遠寺の円山応挙筆「返魂香之図」と山縣普門院本堂が新たに文化財に指定されました。前者は国内唯一の応挙真筆の「崩雲画」です。どちらも指定に前後して行われた調査で、今後の活用の方針につながる新たな発見がありました。文化財による地域創生についてお話しします。
第2回	令和3年10月27日(水)	現代アートで街づくり-アートを語ろう！-	講師：人文社会科学部教授 宮坂 朋(専門：西洋考古学) 内容：青森県では、現代アートで街づくりが進んでいます。興味深い現代アートですが、どのように鑑賞したらいいのでしょうか？古代から続く美術と関係があるのか？アート作品をより深く理解するための第1章です。
第3回	令和3年11月10日(水)	ハラスメント問題を法的に考える	講師：人文社会科学部助教 渡田美羽(専門：労働法) 内容：近年ますます注目される職場における「ハラスメント」問題。誰しもがその被害者、加害者になる可能性を秘めています。自身や家族、友人をハラスメントから守るために、加害者にならないために、立法の状況や裁判例の動向を踏まえつつ、ハラスメント問題を法的な視点から考えてみましょう。
第4回	令和3年11月24日(水)	同じ様なことをしているはずなのに結果で違いが生まれるのはなぜ：戦略論的に考える	講師：人文社会科学部准教授 高島克史(専門：経営管理論) 内容：同じような製品を製造販売しているにもかかわらず、成果では違いが生まれるという現象は様々な業界で観ることができます。本講義では、同じようなことをしているのに成果では違いが生まれるのはなぜか、このような違いを生む原因は何か、経営学(経営戦略論)の知見をもとに考えてみたいと思います。
第5回	令和3年12月 8日(水)	仏像の調査と修理-地域文化資源を守る取り組み-	講師：人文社会科学部助教 佐々木あすか(専門：芸術史、日本美術史) 内容：近年、仏像や絵画といった文化財の修理について、新聞などで紹介される機会も増えてきました。また、さまざまな目的でおこなわれる文化財の調査は、どのような役割を持っているのでしょうか。仏像の調査や修理の事例を紹介することで、地域の文化資源をどのように守り伝えていくのか考えてみたいと思います。
第6回	令和3年12月22日(水)	地方都市の感染症対策行動	講師：人文社会科学部准教授 日比野愛子(専門：社会心理学) 内容：感染症対策は、今後地域社会の重要な課題となりそうです。しかし大都市圏と地方では人々の危機感や行動変容の性質も異なると考えられます。2020年12月に青森県と東京都で行った感染症行動に関する質問紙調査の結果から、感染症問題にしなやかに耐えるヒントを見つけたいと思います。
第7回	令和4年 1月12日(水)	新しいメディアとのつき合い方-歴史学から考える-	講師：人文社会科学部助教 永本哲也(専門：歴史学) 内容：現代は、インターネットやSNSなど新しいメディアが次々と生まれる時代です。こうした急激なメディア環境の変化にどう対応すれば良いのでしょうか？人類史最大級のメディア革命を引き起こした活版印刷術を、16世紀ヨーロッパのひびとがいかにかに活用したかを知ることで、新しいメディアとのつき合い方を考えてみます。
第8回	令和4年 1月26日(水)	若者の恋愛・性行動-少子化の要因を根源から考える-	講師：人文社会科学部教授 羽濑一代(専門：社会学) 内容：日本の人口減少と関わる少子化はこれまで様々な要因が指摘されてきました。これらの指摘から20年以上経過していますが、有効な対策はありませんでした。それは出生が性行動(それに伴う恋愛や結婚)というプライベートな問題と直接関わっているからです。あらためて、日本の若者の性行動や恋愛について社会学的に確認してみたいと思います。
第9回	令和4年 2月 9日(水)	企業活動と環境問題	講師：人文社会科学部准教授 内藤周子(専門：会計学) 内容：企業は、社会的責任を担う一方で、ビジネスを通じて社会課題の解決に貢献できる側面もあります。企業のサステナビリティにかかわる活動の情報は中長期的な視点で企業価値を評価する際に役立つとされています。企業活動の情報開示と環境問題についてお話しします。
第10回	令和4年 2月24日(木)	フリーソフト、オープンデータを用いた弘前市の現状分析の事例紹介	講師：人文社会科学部教授 増山 篤(専門：地理情報科学) 内容：近年、地域の現状を分析・可視化することができ、かつ、金銭的なコストを一切伴うことなく利用可能なソフトウェアやデータが非常に充実してきています。この講義では、学生たちがそうしたソフトウェアやデータを活用し、弘前市の現状を分析した事例を紹介いたします。



お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172-39-3198 (平日9:15~17:00)

E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>